

こちらSNE相談室

※ SNE : Special Needs Education
(特別支援教育)

先日、6年生のクラスで読み聞かせをする機会がありました。何を読もうかと「なかよし図書館」で絵本を物色していたところ、はたこうしろさんの「むしとりにいこうよ」という本が目に入りました。夏を迎えた季節にちょうどいいなと思い、その本を読むことにしました。虫捕りが得意なお兄ちゃんと弟の、ある夏の日の虫捕りのお話です。6年生の子ども達は、黙って(大したリアクションもなく)、そのお話を聞いてくれました。私は、「あの子どもたちにはちょっと幼すぎた話だったかな…」と思いながら、自分のクラスに戻りました。

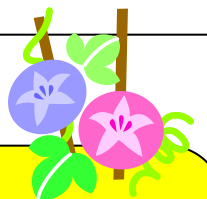
虫捕り、昆虫採集は、その昔、夏休みの定番でした。池田清彦氏(早稲田大教授)は、昆虫採集マニアで、養老孟司氏(「バカの壁」の著者、同じく実は昆虫採集マニア)らと共著で「虫捕る子だけが生き残る」という本を書かれています。副題は、「脳化社会の子どもたちに未来はあるのか」。今の子どもは、偏差値教育の中で、脳への「入力」ばかりしていて、「出力」の機会が与えられていないから、おかしい形で暴発してしまうことがある。「虫捕り」は、虫を見つけるという「入力」、どう捕らえるかという「計算」、そして実際に捕まえる「出力」が繰り返される。また、「虫捕り」は、うまくいかないことが当たり前であって、たまに捕れるととてもうれしい。そういうことが、子どもの成長にとってとても重要なことだと述べています。



このような脳への「入力」「計算」「出力」を繰り返したり、うまくいった喜びを感じられたりする学習を、私たち学校では「体験的な学習」と呼んでいます。「虫捕り」だけでなく、木工や紙工作などの「物づくり」、料理やそうじといった「家事」等も「体験的な学習」と言えます。これらも「入力」「計算」「出力」を繰り返さなければうまくいきません。うまくいくと喜びを感じられます。学校を離れて「体験的な学習」ができる夏休みは、子どもの成長にもよいチャンスです。ちょっとだけ、お手伝いをお願いしますね。

読み聞かせから数日後のことでした。その6年生のクラスの男の子たちが、「先生！タマムシ見つけたよ！」と緑色に輝くその虫を、私のところに持ってきてくれたのです。そう、「むしとりにいこうよ」の最後の最後に、あの兄弟が偶然捕まえた虫が「タマムシ」だったのです。「タマムシ」を私に届けに来た彼らの目の輝きは、「タマムシ」よりもキラキラしていました。(特別支援教育コーディネーター：田中和彦)

おしらせ



◆音楽鑑賞会 9月17日(木) 午前(10時～) 場所：体育館

地元大須賀出身の音楽家吉武まつ子さんらをお迎えして、音楽鑑賞会を開催します。唱歌や童謡など幅広いジャンルの音楽を美しい歌声で聞かせていただきます。保護者の皆さん、地域の皆さん、ぜひお越しください。準備の都合がありますので、参加される方は、学校までお知らせください。

なお、午前であることは決定していますが、詳しい時間は今後決定します。お知りになりたい方は、8月以降、学校にお問い合わせください。